

令和 元 年度

# 学校評価

(最終まとめ)



千葉県立東葛飾高等学校 全日制の課程

令和元年度 「学校評価結果最終まとめ」 千葉県立東葛飾高等学校 全日制の課程

領域	重点目標	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価 (開かれた学校づくり委員会からの意見)	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
学校経営	<p><b>1 地域、保護者等との連携の充実</b></p> <p>①PTA、開かれた学校づくり委員会の開催状況</p> <p>②HPの更新状況(学校行事や外部連携の際にHPが更新されたかどうか)</p> <p>③学校評価アンケートの回収状況及びアンケート結果</p> <p><b>2 安全・安心な教育環境づくり</b></p> <p>④安全点検の実施状況及び防災訓練等の実施状況</p> <p><b>3 有機的かつ効率的な職員集団の形成</b></p> <p>⑤超過勤務時間の確認を通し数値的に改善が見られるか</p> <p><b>4 不祥事を生まない職場環境の醸成</b></p> <p>⑥不祥事根絶に関する教職員の意識</p>	<p>①開かれた学校づくり委員会開催は例年並み。定時制の参観も実施。ミニ集会では校内委員含め 35 名の参加と意見交換があった。</p> <p>②HP(東葛日誌)の更新回数は昨年度2月現在で40回のところ本年度は1月現在で60回を数えた。教職員の回答では肯定率81%(昨年比10%増)ただし、生徒や保護者の評価は十分な数値といえない。</p> <p>③教職員の回収率100%、生徒98.8%、保護者が例年73%台だったが81%(目標75%)に伸ばせた。学校、家庭、地域の連携には教職員81%の肯定率。保護者でも6%上昇(67%)した。</p> <p>④従来の「安全点検」のみの設問から「学習環境の整備と美化」を重ねた設問に変えたため、肯定率が下がった。防災・危機管理に関する生徒の肯定率が7%上昇(60%)した。</p> <p>⑤業務改善に関して設問を新設。業務の効率化・精選に教職員の肯定率は36%。保護者では56%だった。学校行事のバランス感は教職員51%に対し生徒71%、保護者76%である。</p> <p>⑥不祥事防止に関する教職員の自己評価は、肯定率94%で昨年度比2%の向上。</p>	<p>①ミニ集会では近隣小・中学校にもっと参加を促すため、より積極的に声かけを行う。</p> <p>②HPの生徒・保護者の肯定率を上げるためには部活動など、個人に直結する記事の更新が必要と思われる。日常的更新に加え、興味ある内容の発信に努める。学校、家庭、地域の連携は現状を維持するに止まらぬよう、持続可能な範囲で組織的にふれあう環境を醸成していく。</p> <p>③保護者の回収率が数年来の目標をクリアできたことを継続するため、次年度も80%以上の回収を目指す。</p> <p>④設問を継続し、経年変化を見る。学習環境は年々整備・美化の意識が高まっているので、取り組みを継続しより実効性を高める。防災・危機管理の肯定率をより高める工夫。</p> <p>⑤行事の催行と職員の業務過多へのバランスが課題。生徒においても自主性や協調性等を育む一方で、学業との両立、時間の制約など課題が見られる。精選への検討が望まれる。</p> <p>⑥不祥事の根絶に関しては、学校の根幹に関わることで、更に高水準を維持する。</p>	<p>○アンケート回収率の高さから安定した学校生活がうかがえる。中学からの内部進学が始まり、三本柱を高めようと全体が切磋琢磨している様子が数字から伝わる。</p> <p>○学校の教育理念「学力・人間力・教養」の3本柱に教員・保護者・生徒の三者が共通して高い評価を与えていることは、経営の基本といえるので、更に深化すればよいと思う。入学して良かったという肯定感に勝るものはない。</p> <p>○働き方改革の質問は必要あるだろうか。また一方で、業務内容効率化を進めることは大切だろう。</p> <p>○内部進学生も注目の中、冷静に日々を過ごしている。</p>	<p>①常に目的や指標、学校運営における位置づけを明らかにし、様々な教育活動を展開する上で、学校評価や日常的なアンケートなどで、教育目標の達成を追跡する。</p> <p>②③特に保護者の回収率向上のために、回収期間のPR等を意識的に行う。①にあるように目的意識を明確化することで、より「東葛」らしい一体感の醸成に努める。</p> <p>④年間3回の安全点検と安全教室を着実にいき、必要箇所の改修や修繕に可能な限り敏速を期する。</p> <p>⑤本校の魅力の一端である学校行事や教養的な諸学習活動の運営を継続する中で、教職員の業務内容の効率化と精選を意識するとともに、生徒の主体性を鑑みながら、学校の将来像検討に向けた第一歩を進める。</p> <p>⑥職員における不祥事防止・根絶の研修は外部人材を活用し、絶対に不祥事を生まない職場風土の確立を期す。また今日的な課題も積極的に含める。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学習指導</p>	<p>1 中高一貫教育重点校として系統的な人間力の育成</p> <p>①客観的な表現活動を通して成果と課題を意識化共有化し指導の工夫に活かされたか</p> <p>2 教員相互の錬磨による授業力の向上</p> <p>②生徒・保護者による授業評価アンケートの結果で学力を高めている割合65%以上</p> <p>③授業公開実施状況及び職員研修会の実施状況</p> <p>3 幅広い教養教育の充実と深く高度な学力の育成</p> <p>④「大学受験に臨める環境」として、生徒の肯定感向上</p>	<p>①「学力、人間力、教養」の育成が本校の柱である。肯定率は「学力」が教職員 95%(+3%)、生徒 79%(+9%)、保護者 75%(+2%)。「人間力」は78%(+8%)、86%(+7%)、87%。「教養」は97%(+10%)、90%(+3%)、83%(+3%)。</p> <p>②授業実践に関する評価は、生徒の肯定率 72%(前年比+2%)で3年間継続して増加。学習評価の適切さについての肯定率は生徒、保護者ともに89%。</p> <p>③教職員では「互見授業」及び「学力向上研修」を6月と11月に実施。互見授業を通じた授業力向上の教職員評価は、肯定率 71%(−10%)だった。授業公開は5月と11月に実施。9月に授業力向上研修を行った。11月、若手教員研修チームにより最新の「学びの在り方」を学んだ。</p> <p>④定期テストのほかに、4月10月11月に業者模試を学年毎実施。年間を通して希望者への模試を6回実施。</p>	<p>①3本柱の理念が三者によって共有されていることを評価し、今後も維持していく。その中で、併設中学校の学習形態・生活環境から、高校の学習形態・生活環境への移行をスムーズにするための工夫を十分に行う。</p> <p>②授業実践の生徒評価が80%を、学習評価の適切さへの生徒・保護者の評価が90%超えるよう努める。</p> <p>③学力向上委員会主催の「互見授業」活性化が課題。若手教員研修チームの活動が単発になりがちという反省を踏まえる。</p> <p>④模擬試験の設定時期を進路指導部が検討しており、生徒のニーズと実態により即した実践にするとともに、担当職員の過剰勤務とならない工夫を施す。</p>	<p>○学校の教育理念「学力・人間力・教養」の3本柱に教員・保護者・生徒の三者が共通して高い評価を与えていることは、経営の基本といえるので、更に深化すればよいと思う。</p> <p>○授業にも生徒の自主自律の姿勢が感じられた。伸び盛りの時期なので、それぞれの個性・能力を引き出す環境作りが大事。</p> <p>○教養の高まりを実感できていると思う。</p>	<p>①授業・教養教育・学校行事のバランスのとれた充実推進を、機会あるごとに三者で確認していく。</p> <p>②学校評価等から客観的な資料を読み取り、授業の一層の充実に資する。特徴的な中学校での教育スタイルを持続するとともに、教職員間の交流(研修等)を増やし、中高の授業の垣根を低くしていく。</p> <p>③高校が求められる学力や学習の在り方等を鑑み、組織的な研修を行う。互見授業を形骸化させないよう、学力向上委員会中心に策を練る。教職員の過剰負担とならない工夫をしつつ必要な情報を得る窓口として研修を活用する。若手教員のチームリーダー育成と組織的な研修を行う。</p> <p>④模擬試験や補習について、行事検討の中で、生徒のニーズと学校教育活動の実態とに即した実践にするとともに、担当職員の過剰勤務とならない工夫を施す。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">キャリア教育</p>	<p>1 キャリア教育の充実及び進路実現への対応</p> <p>①インターンシップ事業の実施状況。進路のしおり、進路だよりの発行状況。説明会の実施回数と状況</p> <p>2 幅広い教養の形成</p> <p>②職員研修の実施回数とその状況</p> <p>③大学訪問、講演会の実施状況</p> <p>④学校評価アンケートを通じた充足度の確認</p>	<p>①④インターンシップ(2年)、進路の日(各学年)の実施。進路指導への肯定率は教員 94%に対して生徒74%であり、進路情報に対する満足度は生徒・保護者ともに77%である。</p> <p>②キャリア教育に関わる教職員研修を、学力向上委員会により実施。予備校等の情報分析をもとに全職員で研修した。</p> <p>③進路の日やリベラルアーツ、大学での発表等を通して、大学に直接触れる機会を得ることに努めた。</p>	<p>①④インターンシップや進路の日などの活動は有効であり、本校生徒にとって意義深い。進路全般の生徒と保護者の肯定率を更に高めるための工夫を行う。</p> <p>②キャリア教育に関しては①にもあるよう、様々なシステムを構築している。組織としての体系的な整理を行い、教員はもとより、生徒や保護者に十分な理解を与える。</p> <p>③授業のみならず、本講特有の幅広い教育実践の中で、積極的に上級学校との交流を持続する。</p>	<p>○入試制度改革の内容的な変更等もあったが、基本理念に貫かれるところは見失わず、しっかり情報収集と伝達をしていくことが肝要。</p> <p>○様々な取り組みをしているので積極的にアピールしていくとよい。</p> <p>○自主自律、何でも自分で、進路も自分でというイメージがあったが、きちんと進路指導して下さることがとても嬉しい。</p>	<p>①④正確な進路情報の収集に努めるとともに、感覚的かつ拙速な情報発信をしないよう、大学入学試験対策には組織的に対応する。</p> <p>②進路指導部を窓口として、予備校や受験関連業者等の豊富な情報資源を活用し、組織的・体系的な研修を意識する。</p> <p>③生徒、教員とも過重な負担とならない配慮のもと、積極的な交流を持続する。</p>

<p>特色ある教育活動</p>	<p>1 グローバル社会に対応する幅広い教養教育の充実          ①学校評価アンケートを通じた充足度の確認          ②東葛リベラルアーツ講座の実施状況及び参加状況          ③自由研究の実施状況</p> <p>2 医歯薬コース並びに併設中学校の円滑な運営          ④医歯薬コースへの生徒の参加状況と進学実績          ⑤中学生の高校行事及びリベラルアーツ講座等への参加状況</p>	<p>①グローバル社会で活躍できる人材の育成に関し生徒・保護者とも 1～2% 肯定率が微増。          ②リベラルアーツ講座 98%、医歯薬講座 97%と、教職員の肯定率は高水準を維持している一方で、生徒の積極的参加は 45%と例年並みに低い。          ③自由研究については教員 79%の肯定率に対し、生徒 80%、保護者 90%と均衡がとれている。          ④医歯薬研究発表大会を例年通り開催した。他校からの招待発表など新しい取り組みも行った。          ⑤中学校との連携に関する設問について、教員・生徒・保護者の肯定率が例年と変わらず半数程度と低い。接続から連携へと発展すべき模索は続く。</p>	<p>①当該項目の肯定率が毎年あまり向上しないことを踏まえ、現在の本校の教養教育と、英語授業のみを意味しない「グローバル性」との整合を、積極的に広報していく。          ②教職員が入れ替わっても、講座が主体的に維持、運営されるよう繋いでいくことが必要。教職員の総労働時間との兼ね合いも工夫が必要。          ③1学年生徒に比べ、上級生の肯定率が低下するのが毎年の傾向であり、課題となる。          ④医歯薬コースの運営内容は軌道に乗っている。今後起きる教職員の異動も視野に入れ、持続可能な中長期的な展望を検討していく。          ⑤中学校からの内部進学生初年度である。今後逐次その数を増やすことを考えれば、授業を通じた交流や、様々な情報の疎通が、より重要になる。</p>	<p>○医歯薬講座の研究発表は完成度が高い。教養教育の充実があり、人材育成に大きな役割を果たしている。          ○中学生からの主体的取り組みは創造性を養う素地になる。教員の工夫された授業を通してプレゼン能力の向上があり、社会に大いに期待されるものである。高校でも継続して培われていくことが期待される。          ○中高連携では中学生、保護者の期待と高校側とに意識差が感じられる。中学生にとって目前に目標が見えるのは良いこと。一方で、中高の関りはカリキュラムを見ると難しい面もある。</p>	<p>①「グローバル社会で活躍する人材」の定義を共有することが肝要。その上で評価数値向上の方策を検討する。          ②リベラルアーツ講座に参加した生徒の肯定感が高く、可能な限り参加を促す工夫が肝要。          ③自由研究は本校の学びの伝統(核心)でもあり、継続していく。          ④医学部に続き、薬学部における高大連携の締結を行う。医歯薬コースの継続可能な展望を再確認する。          ⑤中高連携を深化させるための仕掛けをより組織的に捉え、実務レベルでの中高の連絡会等も考える。教育活動が適切に保護者の理解につながるよう、広報活動も不可欠。</p>
-----------------	--	--	---	---	--